

6月は病害虫の重点防除時期です。殺菌剤は降雨前の散布を心掛け、殺虫剤は害虫の発生に合わせて散布しましょう！

1 気象概況

(1) 5月の気象

会津若松市の令和4年5月の平均気温は16.5℃（平年比+0.3℃）、合計降水量は80mm（平年比+5.4mm）で、概ね平年並みで推移しました。

(2) 6月以降の気象

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台6/9発表）によれば、6月中旬から7月上旬にかけての気温は平年並みかやや高く、降水量及び日照時間は平年並みとなる見込みです。

2 果樹の生育概況

モモでは満開が平年よりも4日程度早まった影響で、果実は平年よりも大きくなっています（表1）。また、リンゴでも、満開が平年よりも6日程度早まった影響で、平年よりも果実が大きくなっています（表1～2）。

表1 各樹種の果実肥大状況（6月1日調査、暦日比較、平年は1986～2021年の平均）

樹種 品種	リンゴ				モモ	
	ふじ		つがる		あかつき	
調査地点	会津若松市 北会津町				会津若松市 神指町	
	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
果実径 (mm)	26	23	26	25	33	31
平年比 (%)	112	117	113	110	106	133

表2 リンゴ結実果そう率調査（5月24日調査、会津若松市北会津町）

品種	結実果そう率 (%)	中心果結実果そう率 (%)
ふじ	65 (44)	53 (18)
つがる	75 (58)	69 (32)

※（ ）内は前年同時期の調査結果
…昨年は霜被害により中心果結実果
そう率が低くなっている。

3 今後の栽培管理

梅雨期は特に病気に感染しやすい時期です。薬剤防除は10日以上間隔を空けないようにしましょう。散布の際は、樹全体にかかるように十分な量を散布し、SSはできるだけゆっくり走るように心がけましょう。また、薬液の通りを良くするため、必要に応じて夏季せん定を行いましょ。う。

(1) リンゴ

ア 仕上げ摘果

今年は「つがる」で結実率が高く、摘果作業が遅れている園地が多く見られます。摘果は、果実肥大を促進し、翌年の花芽を確保するために重要な作業です。表3を目安に、満開後60日（今年の北会津「ふじ」なら6月30日頃）までに終了させましょ。う。

イ 病害虫防除

主枝に近い葉の裏などではナミハダニ（図1）の発生が見られています。また、一部園地では斑点落葉病または褐斑病とみられる病斑や、ケムシ類の発生が見られています。薬剤のかからない箇所が無いよう散布時は留意するとともに、必要に応じて夏季せん定を実施しましょ。う！



図1 ナミハダニ(拡大画像)

なお、県病害虫防除所の調査によれば、今年の6月初旬までにおけるカメムシ類の果樹園地への飛来は確認されませんでした。しかし、油断は禁物です！ 新成虫が7月頃から発生すると予想されますので、防除暦を参考に防除を徹底しましょ。う。

表3 仕上げ摘果の基準

品 種	仕上げ摘果の目安	必要葉枚数
あかね、つがる、紅玉など	3頂芽に1果	1果あたり45枚
ふじ、陽光、ジョナゴールド 王林、さんさなど	4頂芽に1果	1果あたり60枚

(2) カキ

ア 生育状況

開花期は平年と比べて3日程度早く推移しました。。(表4)

表4 会津身不知の生育状況

発芽	展葉	開花(始)	開花(満開)
4月10日 (平年並)	4月24日 (平年より1日早い)	6月1日 (平年より3日早い)	6月4日 (平年より4日早い)

イ 栽培管理

2 L以上の大玉の果実を生産するためには、摘花をしっかりと行うことが重要です。遅くとも生理落果が始まる満開後10日頃（6月14日頃）までに摘花を実施しましょう。その後、生理落果が終了した7月中～下旬に、小果、傷果、奇形果等を中心に最終着果数を目安に修正摘果を行います（表5）。

表5 結果枝ごとの摘花程度及び最終着果数の目安

新梢長	残す花数	最終着果数
5 cm 以下	0 個	0 果
5～15cm	3 本に 1 個	1 果
15～30cm	1 個	1 果
30cm 以上	2 個	1～1.5 果

ウ 凍霜害を受けたカキの対応

凍霜害により結果母枝の芽が枯死すると、残った副芽や休眠芽、不定芽が発芽・展葉しますが、遅れて発生した新梢は徒長や二次伸長を起こしやすく、次年度の花芽が十分確保できない可能性があります。

新梢が混雑した場合は、主枝・垂主枝の背面や切り口から発生した新梢を手でかき取るか基部から切除しましょう。また、側枝途中の年次変わり等から発生した30～40 cm以上の徒長した新梢に対しては、花芽分化期が始まる6月下旬頃に、先端を10～15 cm程度摘心することで次年度の花芽分化を促すことができます。

(3) モモ

ア 栽培管理

会津若松市神指町のモモ「あかつき」は6月10日頃に満開後50日となり、「硬核期」に入ったとみられません。硬核期の間に摘果や夏季せん定を行うと、生理落果や果実の核割れ等が起こりやすくなります。摘果や夏季せん定は必要最小限に留めましょう。

なお、双胚果（図2）があれば、優先的に摘果しましょう。双胚果は正常果と比べて大きく、丸い特徴があります。



図2 双胚果

イ 病虫害防除

県内では、モモせん孔細菌病が発生しています。今年は、一見すると判別の難しいような「春型枝病斑」も見られていたようです（図3～5）。せん孔細菌病は降雨で感染が広がるため、梅雨期に感染が拡大する恐れがあります。病斑を見つけたら基部まで切り戻し、園外に持ち出して適切に処分しましょう。



図3 健全な一年枝



図4 春型枝病斑



図5 春型枝病斑

※図3～5は全て県農業総合センター果樹研究所より提供

(4) ブドウ

ア シャインマスカットの栽培管理

開花が始まる6月上旬頃に花穂整形を実施しましょう。整形した花穂が全て咲ききった頃が第1回目ジベレリン処理の適期です。早すぎても、遅すぎても効果が低下します。開花期が揃わない場合は、処理を何回かに分けて実施しましょう。

また、満開10～15日後には第2回目ジベレリン処理を実施します。これも時期が早すぎたり遅すぎたりすると効果が低下するので、注意しましょう。

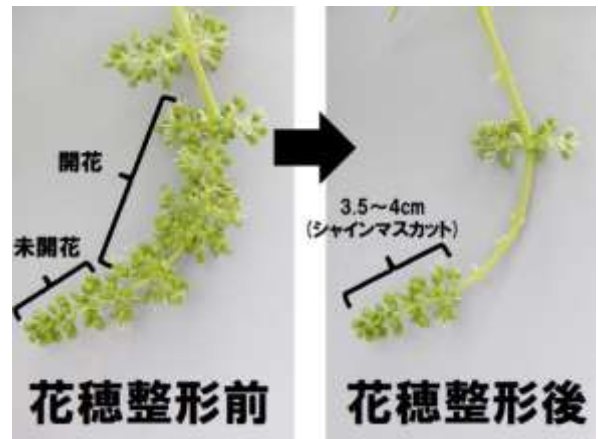


図5 花穂整形

4 水稲育苗ハウスを活用したブドウ栽培について

会津農林事務所では、平成31年4月から「水稲育苗ハウスでのブドウ栽培」の実証を実施しており、今年度で実証4年目となりました。

今年度も「ブドウ基礎講座」と題して、6月から月1回程度ずつ、実証まで現地指導会を開催します。ブドウ栽培初心者や新たに栽培を検討されている方、大歓迎です。

また、昨年はリモート開催でしたが、今年は現地開催（河東町）を予定しております！ブドウ栽培に興味のある方は是非、会津農林事務所農業振興普及部(0242-29-5307)までお問い合わせください！



図6 昨年のブドウ基礎講座
(リモート開催)